

令和5年度 墨田区立中川小学校 経営報告書

校長名 三ヶ島 誠一郎

学 校 目 標	◎よく考え、進んで学習する子（今年度の重点） ○思いやりの気持ちをもち仲良くする子 ○からだをきたえ、ねばり強く努力する子
目 指 す 学 校 像	保護者、地域から信頼され、児童が安心して自分を伸ばせる学校
目 指 す 子 供 像	自他を大切にしながら、自ら何事にも根気よく取り組む児童
目 指 す 教 師 像	人間的、社会的に成熟した存在として、児童に範を示し、児童を愛し、児童のために研鑽し、児童に成長を実感させ、児童と共に成長を喜び合える教師

1 自己評価結果と学校関係者評価の状況

項目	取組目標	自己評価		学校関係者評価		
		達成状況		○分析 ・改善方策	自己評価について	改善策について
		取組指標	成果指標			
各教科等指導等	○確かな学力を育てるために「できる」「わかる」が実感できる授業を実施する。	3	4	○①について 教職員アンケート「日々の教育活動で ICT 機器を積極的に活用した授業を行っている。」の肯定的な回答は 96%にとどまった。 ・教職員のスキルによって、ICT 機器の得手、不得手はあるが、G I G A スクール構想をさらに推進するため、研修の機会などを設け、教職員アンケート「日々の教育活動で ICT 機器を積極的に活用した授業を行っている。」と自信をもって全員が回答できることを目指す。	B	A
	① 年間指導計画に基づいた意図的・計画的な指導を実施する。					
	② 校内研究を基盤とした教師の指導力の向上（今年度は国語）を推進する。	4	4	○②について 教職員アンケートで「日々の授業で学習内容がわかりやすくなるよう工夫して指導をしている。」の肯定的な回答は 100%であった。これからも自信をもって「指導している。」といえるよう研鑽を積んでいく。	A	A
	○特別な支援を必要とする児童に対しての、組織的な支援等を行う。	4	4	○②について 児童アンケート「相談をしたとき、先生は話を聞いてくれますか。」の肯定的回答 86%であった。そして「わからない。」という回答が 8%あった。 ・「先生はみんなのことを大切に考えていて、いつでも相談にのってくれる。」「担任の先生以外にもスクールカウンセラーなど、様々な先生がいる。」ことをしっかり周知していく。	A	A
	① 特別な支援を必要とする児童への対応を推進する。					
② 相談体制の確立を図る。	4	2		C	A	
○社会的自立に向けた進路指導・キャリア教育・相談活動等に			○保護者アンケート「お子さんは本校教育目標『からだをきたえ、粘り強く努力する子』に育っている。」の肯定的な回答は 69%であった。児童アンケート「自分の目標に向かって頑張っていますか。」の肯定的回答は 88%			

様式 4

<p>取り組む。</p> <p>①夢や希望をもち、地域を大切にし、将来にわたって学ぼうとする児童を育成する。</p>	2	3	<p>であった。</p> <p>・キャリア教育とも関連して、夢や希望をもつ児童の育成に努めている。その際、本校の教育目標にも関わって「粘り強く努力する。」ことも大切にしている。授業や様々な活動の場面で、成功体験を得られるように指導方法を工夫し、やり遂げる喜びを育てていく。</p>	B	A
<p>○教員の指導力・授業力の向上のための、組織的な取組等を行う。</p> <p>①OJTを中心とした人材育成を行う。</p>	4	4	<p>○①について</p> <p>○J T計画に基づく研修を計画通り実施することができた。管理職による定期的な授業観察を年3回以上実施し、適宜指導することができた。</p>	A	A
<p>学校関係者評価委員会の評価委員による、学校運営の改善に向けた実際の取組についての意見等</p>	<p>「学校公開や行事の開催を通して、中川小学校の教育活動を昨年度よりも見る事ができて喜ばしい。」「どの子も穏やかで素直な姿がよさだと感じている。今後もこうした児童を育成して行ってほしい。」「先生方が日々の授業で学習内容がわかりやすくなるよう工夫して指導をしていることは授業の様子からもうかがえる。一人一台端末を1年生も使用している姿に感心した。」</p>				

項目	取組目標	自己評価		学校関係者評価		
		達成状況		自己評価について	改善策について	
		取組指標	成果指標			
生活指導等	<p>○いじめ、不登校等の予防や解決に向けた組織的な取組を行う。</p> <p>①児童の状況の共通理解に基づき、いじめや不登校の対応に組織的・協働的に取り組む。</p>	4	4	<p>○①について</p> <p>毎週金曜日に生活指導夕会を行い、全教員で児童理解を図った。関係委員会を開催し、いじめや不登校児童の発生の未然防止、発生した際の早期対応・早期解決を推進した。これらの取組により事案発生時には迅速に対応し、解決に導くことができた。今後も継続していく。教職員自身も教職員アンケート「日々の教育活動で、児童が楽しく学校へ通うことができるよう工夫している」の肯定的回答100%と、取組を自負している。</p>	A	A
	<p>○基本的な生活・社会習慣、人間関係づくりのための心の教育等に取り組む。</p> <p>①基本的な生活習慣の定着、あいさつの励</p>	3	3	<p>○①について</p> <p>「中川スタンダード」「中川のやくそく」を活用して生活指導を実施した。「あいさつ」を重点目標と位置付け、あいさつ週間を実施した。教職員アンケート「道徳教育を充実させ、子供に思いやりの心や規範意識を育てようとしている」の肯定的な回答は96%だった。</p> <p>・教職員アンケート「道徳教育を充実させ、子供に思いやりの心や規範意識を育てようと</p>	B	A

様式 4

	行、学習モデルの確立、規範意識の向上を図る。			している。」の肯定的な回答 100%目指していた。教職員自身がしっかり指導していると自信をもって言えるよう自らの職責を再認識させ、児童の指導に当たるようにする。		
	○危機回避能力の育成や子どもの安全を確保するための取組等を行う。 ①緊急時の避難行動など安全指導の徹底を図る。 ②校内での安全への配慮を徹底し、学校施設における安全を確保する。	3 4	4 4	○①について 月1回、様々な災害を想定した避難訓練を実施した。命を守る行動能力を向上させた。児童アンケート「避難訓練に真剣に取り組んでいますか。」の肯定的な回答は96%だった。 ・児童全員が「真剣に取り組んでいる。」といえるよう、生命や安全の重要性について安全指導の内容などをさらに充実させていく。 ○②について 毎月の安全指導の実施により、事件・事故の未然防止に努めた。危険な場所を察知し、適宜対応することができた。	B A	A A
	学校関係者評価委員会の評価委員による、学校運営の改善に向けた実際の取組についての意見等	「授業規律は整っていると思う。どのクラスも児童がしっかり授業に取り組んでいる。」「朝、登校の様子を見守っていると、しっかりあいさつしてくれる児童がいてうれしい。」「いじめや不登校は社会的にも大きな問題として注目されている。今後も未然防止、早期発見、早期解決を目指して取り組んでほしい。」				

項目	取組目標	自己評価		学校関係者評価		
		達成状況		○分析・改善方策	自己評価について	改善策について
		取組指標	成果指標			
学校の管理運営	○学校経営方針に基づいた組織的な教育活動・学校運営等を行う。 ①主幹、主任教諭を校務分掌のチーフとし、責任ある立場を担当させることで、職層を意識した主体的学校運営を行う。	4	4	○①について 主幹・主任教諭が主体的に分掌を運営することにより、職層を意識した活動を実現させた。年3回の自己申告を通して、組織的に課題を解決していく意識を育んだ。今後も組織を意識した運営を心掛け、「チーム中川」として一体感をもって教育課題にあたっていく。	A	A
	○子どもの実態に合わせた教育目標設定および学校評価等を適切に行う。 ① アンケートを適宜	2	4	○①について 児童、保護者、地域、教員によるアンケートを行い、改善策を立案し、実施した。保護者アンケート回収率 90%以上を目指したが、76%にとどまった。 ・保護者アンケート「学校は行事や学校公開などを通して、子供たちの学校生活の様子がわかるようにしている。」の肯定的回答は	C	A

様式 4

	実施する。			96%と高く、一定の評価は得られていると考えるが、学校をよりよくするために今後も適宜呼びかけ、回収率を高めていく。		
	○適切な教育活動が行える教育環境・設備等を整える。 ①意図的・計画的に掲示等を行う。 ②設備等を有効活用した教育活動を実施する。	4	4	○①について 児童に対する教育効果を高め、人権に配慮した掲示を実施した。保護者アンケート「学校は、教育活動において子どもの人権を尊重している。」肯定的な回答も93%と高かった。今後も人権感覚を大切にしながら教育活動を実施する。 ○②について保護者アンケート「学校は、ICT機器を積極的に活用した授業を行っている。」の肯定的な回答は78%であった。又「わからない。」の回答は20%であった。 ・学校公開の時期だけでなく家庭学習でも児童が一人一台端末を使う機会を増やしていく。	A	A
	○教職員の健康を守る労働環境作り ①心身の健康管理の徹底を図る。適正な勤務時間を推進し、超過勤務残業時間の短縮を図る。	3	3	○日常的にコミュニケーションを図った。毎月の出退勤時間の記録を確認し、超過勤務が増えないよう声を掛けた。しかし、超過勤務時間の多い職員が一定数存在した。 ・職務に対する勤勉さの表れともとれるが、ライフ・ワークバランスを推進していく。その中で最小の努力で最大の効果を得ることを意識させる。また、業務や行事の精選を今後も続ける	B	A
	学校関係者評価委員会の評価委員による、学校運営の改善に向けた実際の取組についての意見等	「特に問題を感じていないのでアンケートの回収率が低いかもしれないが、保護者も学校にしっかり関わっていくという意識のもと、今後も呼びかけてほしい。」「先生方のお仕事が忙しいことは報道などでも目にする。お体に気を付けてこれからも子供たちのために尽力していただきたい。」				

項目	取組目標	自己評価		学校関係者評価		
		達成状況		自己評価について	改善策について	
		取組指標	成果指標			
家庭・地域連携	○教育目標や日常の教育活動の様子など工夫してわかりやすく伝える取組等を行う。 ①学校からの情報発信を充実し、教職員のPTA、地域の諸活動への積極的な参加を促す。	4	2	○ホームページの定期的な更新により、学校の様子や情報を定期的に発信した。PTA、地域の諸活動への参加を促進した。保護者アンケート「学校は教育目標や教育方針、学年・学級目標等を配布物（学校便り、学年便りなど）やホームページによって保護者にわかりやすく伝えている。」の肯定的回答は91%と高かった。一方、教職員アンケート「学校は教育目標や教育方針、学年・学級目標等を配布物（学校便り、学年便りなど）やホームページによって保護者にわかりやすく伝えている。」の肯定的回答は82%であった。 ・学校サイドとしてまだ工夫の余地があると考えられる。保護者会、学年だよりをさらに有効活用して、自ら自信をもって「わかりやすく伝えている。」といえるように指導する。	C	A

様式 4

○保護者や地域の理解や協力を得た教育活動を行う。 ①地域人材の活用で学びの場や遊びの場の機会を拡充させる。	4	4	○地域人材の協力のもと、各学年、毎月2回以上、放課後活動の場を計画した。校庭改修工事期間を除き、計画通り実施することができた。	A	A
○幼保小中連携教育の推進 ① 教員間連携と児童間連携の充実を図る。	4	4	○幼保小中連携協議会計画に基づいて計画通りすべて実施することができた。今年度はコロナによる制限も解除され、園児が本校の行事を参観したり、一緒に交流したりという場が再開されたものが多くあった。新年度もよりよい交流を検討し、さらに発展させていく。	A	A
学校関係者評価委員会の評価委員による、学校運営の改善に向けた実際の取組についての意見等	「地域人材の協力のもと、児童の放課後活動の場を確保されているのはありがたい。」「今年度は大谷翔平選手から寄贈されたグローブがあり、その活用場としても生かされていると聞いてとてもよいと思う。」「学校ホームページで日々の児童の様子を配信している取組はとてもよい。これからも続けてほしい。」				

2 令和5年度学校評価のまとめ

<p>・学校経営方針である「子どもたちが元気であいさつの響く学校づくり」を目指し実践してきた。90%の児童が「学校は楽しい。」と回答し、95%の保護者が「お子さんは楽しく学校生活を送っている。」と回答している。これからも「できる・わかる授業」を大切に教育活動を推進していく。</p> <p>・課題として「お子さんは本校教育目標『よく考え、進んで学習する子』に育っている。」「お子さんは本校教育目標『思いやりの気持ちを持ち、仲良くする子』に育っている。」「お子さんは本校教育目標『からだをきたえ、ねばり強く努力する子』に育っている。」の質問に対し、肯定的な回答はそれぞれ75%、92%、69%であった。知・徳・体の全人的な人格の形成を目指し、改善方法をもとに、次年度もより一層の教育活動の充実を図っていく。</p>
--

以上の通り報告いたします。

墨田区立中川小学校 校長 三ヶ島 誠一郎 公印